

福岡県交通ビジョン 2022 の
令和 4 年度実施状況
(概要版)

○福岡県交通ビジョン 2022 に掲げる施策目標（22 件）の進捗状況

- | | |
|--------------|------|
| ①目標達成済み | 0 件 |
| ②順調に進捗しているもの | 12 件 |
| ③努力が必要なもの | 10 件 |

1 世界を視野に九州・山口の一体的発展を支える交通ネットワークをつくる

コロナ収束後を見据え、空港・港湾といった世界と九州・西日本を結ぶ交通拠点の更なる強化と、鉄道・基幹道路等、各拠点を結ぶ交通ネットワークの更なる充実に取り組んでいる。

●主な取組内容

【1 福岡空港、北九州空港の役割分担と相互補完の推進】

- 滑走路増設の早期完成に向け、国への要望活動や国との協議を実施。
- 北九州空港の航空機産業の拠点化に向けた誘致・支援を実施。
- 航空貨物取扱量の増加に向け、重量助成制度を活用し、運送事業者、荷主に対する積極的な集貨活動を実施。
- 福岡空港及び北九州空港の両方に乗り入れている航空会社のうち、マルチエアポート未実施の航空会社に対し、協議を継続して実施。
- 福岡高速3号線（空港線）の早期供用に向けて用地買収に着手。

【2 国際貿易、国際観光を担うターミナル港湾の整備】

- 北九州港の更なる物流拠点化を図るためセミナーの開催や、船会社・荷主企業等への営業活動を実施。
- 博多港において、荷主企業等へのポートセールス（集荷・航路誘致）を実施。
- 新門司地区において、自動車運搬船の船舶大型化に対応し、物流の効率化と輸送コストの削減を図るため、航路(-10m)、泊地(-10m)の付帯施設整備を実施。
- アイランドシティコンテナターミナルにおいて、拡張したコンテナヤードの供用を開始。
- 新松山地区のふ頭・新松山臨海工業団地の整備（土地造成）を実施。
- 三池港において、荷主及び船社への助成金を交付。

【3 空港、港湾と県内各地域を結ぶネットワークの強化】

- 東九州自動車道苅田北九州空港IC～行橋IC間のうち約1.1km区間、築城IC～椎田南IC間の約7.7km区間について、4車線化事業を開始。
- 基幹的な道路（国道322号、筑紫野古賀線、久留米筑紫野線など）の整備を実施。

【4 都市と都市、都市と地域を結ぶ交通網の充実】

- 福岡市地下鉄七隈線の延伸について、令和5年3月27日に開業。
- 福岡市地下鉄空港線とJR福北ゆたか線の接続について、沿線2市9町で構成される「福岡市地下鉄福岡空港駅・JR九州長者原駅接続促進期成会」に対し、令和3年度に実施した基礎調査の結果を報告。
- 中山間地の振興などを支援する道路整備を実施。
- 地域活性化プロジェクトなどを支援する道路（飯塚福岡線、直方鞍手線など）整備を実施。
- 基幹的な道路（国道385号、筑紫野古賀線、中間水巻線など）整備を実施。

●施策目標

順調に進捗しているもの

施策目標	当初値 (令和2年度)	目標値 (令和8年度)	現状値 (令和4年度)
北九州空港の利用者数	33万人	212万人	85万人
鳥栖朝倉線（味坂SIC（仮称）工区）の整備	－	完成 (令和6年度)	－
西鉄天神大牟田線（春日原～下大利）連続立体交差事業の整備	－	完成 (令和6年度)	－

努力が必要なもの

施策目標	当初値 (令和2年度)	目標値 (令和8年度)	現状値 (令和4年度)
福岡空港の新規国際路線誘致数	－	4路線 (累計)	0路線
北九州空港の航空貨物取扱量	15,362トン	42,000トン	17,466トン
三池港コンテナ取扱個数	18,935TEU	24,000TEU	9,841 TEU
鉄道利用者数	1,389千人/日 (令和元年度)	維持	1,064千人/日 (令和3年度)

【今後必要な取組み】

- 福岡空港の新規国際路線誘致数
 - ・引き続き、福岡国際空港株式会社と連携し、新規国際路線就航のため、路線誘致活動を実施していく必要がある。
- 北九州空港の航空貨物取扱量
 - ・航空貨物に対する重量助成制度等を活用しながら、運送事業者・荷主に対するさらなる集貨促進（特に欧米向け貨物）に取り組む。
 - ・これまで北九州空港を利用していなかった新規荷主を開拓し、九州・中国地方に集積している半導体関連部品や自動車部品等の貨物を取り込む。
- 三池港コンテナ取扱個数
 - ・今年度、大型船舶の夜間出港を可能とするため、港の整備（指向灯の設置・浚渫工事）を進めるとともに、三池港の入出港基準の見直しに向けて関係者（海保・水先人）と協議を行う。夜間出港が可能となると、船社は沖待ち時間が短縮され、経費の削減にも繋がることから、これらを積極的にPRし、現行航路の維持及び新規航路誘致に努める。
- 鉄道利用者数
 - ・沿線市町村等で構成する各種協議会における利用促進の取組みや、平成筑豊鉄道におけるレストラン列車の運行など、鉄道の利用者の現状維持・増加に努める。

2 未来を見据え、「デジタル」「グリーン」な交通を展開する

社会のデジタル化が急速に進展しており、交通分野においても、デジタル技術を社会に浸透されることで、人々の生活をより良いものに変革するという DX（デジタルトランスフォーメーション）の考え方のもと、デジタル化の推進に取り組んでいる。

また、「福岡県地域温暖化対策実行計画（第2次）」では、輸送部門において、自動車1台当たりの二酸化炭素排出量を37%削減する目標が立てられていることから、地球環境負荷の少ないグリーンな交通の実現に取り組んでいる。

●主な取組内容

【1 交通分野のデジタル化の推進】

- AI等を活用したオンデマンド交通システムを導入する市町村に対し、導入経費等を助成。
- MaaS やオンデマンド交通の取組の紹介、事業者とのマッチングを開催。
- 九州 MaaS プロジェクト研究会への参画。
- コミュニティバス等の経路検索、キャッシュレス決済等を導入。
- デジタル乗車券の販売を実施。
- 発災時において、ドローン等の活用による道路や港湾施設等の災害状況を迅速に把握。
- 港湾施設に関する情報を一元管理し、データを有効に活用。
- 水素社会の構築を目指し、トヨタ・いすゞ等が出資する合併会社である CJPT との間で、FC モビリティ普及に向けた取り組みに関する連携協定を締結。
- 水素ステーションの整備について、候補地の紹介から地権者との交渉まで一貫したサポートを実施。
- 中小企業者等による水素ステーションその他の次世代自動車用燃料供給設備の導入に対する融資制度を運用。
- 福岡県内の自動車運送事業者 25 社（39 台）の ASV 導入に対し補助金を交付。

【2 地球環境負荷の少ないグリーンな交通の実現】

- 直方北九州自転車道線、遠賀宗像自転車道線の整備を実施。
- パーク・アンド・ライドの実施、イベントや広報物等による PR 活動等、公共交通や自転車の利用促進に関する取組を実施。
- 光ビーコン・高度化 PICS の新設・更新を実施。
- 交通管制システム中央装置等の改修を実施。
- 「ふくおかエコライフ応援サイト」において取組方法や優良事例を発信し、エコドライブの普及促進に関する取組を実施。
- 県が管理するトンネル照明の LED 化を実施。

●施策目標

順調に進捗しているもの

施策目標	当初値 (令和2年度)	目標値 (令和8年度)	現状値 (令和4年度)
新たな輸送サービスの導入件数	8件 (累計)	30件 (累計)	17件 (累計)
西鉄天神大牟田線(春日原～下大利)連続立体交差事業の整備(再掲)	—	完成 (令和6年度)	—

努力が必要なもの

施策目標	当初値 (令和2年度)	目標値 (令和8年度)	現状値 (令和4年度)
鉄道利用者数(再掲)	1,389千人/日 (令和元年度)	維持	1,064千人/日 (令和3年度)
乗合バス利用者数	269,132千人 (令和元年度)	維持	201,101千人 (令和3年度)
地域鉄道利用者数	7,540千人 (令和元年度)	維持	6,109千人 (令和3年度)
<p>【今後必要な取組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 乗合バス利用者数 <ul style="list-style-type: none"> ・今後も、在宅勤務をはじめとする新しい生活様式の浸透等により、一定の減少が続くと思慮されるため、引き続き、路線バス事業者に対する補助を行うとともに、事業者や市町村と連携して、利用促進に取り組む。 ○ 地域鉄道利用者数 <ul style="list-style-type: none"> ・沿線市町村等で構成する各種協議会における利用促進の取組みや、平成筑豊鉄道におけるレストラン列車の運行など、鉄道の利用者の現状維持・増加に努める。 			

3 住み慣れたところで、「働く」「暮らす」「育てる」ことができる持続可能な交通をつくる

住み慣れたところで働き、暮らし、子どもを産み育てるため、移動手段の確保、地域の実情に応じた持続可能な地域交通の実現、誰もが移動しやすい交通環境を推進するとともに、まちづくりと連携した交通網の整備、生活道路や自転車利用環境の整備に取り組んでいる。

●主な取組内容

【1 地域公共交通の維持・確保】

- 地域公共交通計画の作成について、市町村が設置する地域公共交通会議に委員等として出席し、必要な助言を行うとともに、必要に応じた個別ヒアリングにより、課題の共有や情報提供を実施。
- 研修会や個別協議の際に立地適正化計画の策定を促した。また、策定作業を進める市町村への助言を実施。
- 鉄道事業者が実施する安全施設の整備に対する補助を実施。
- 路線バス、コミュニティバスや離島航路に対する補助を実施。
- 県ホームページにおいて、県内のパーク・アンド・ライド駐車場の情報を発信。
- 平成筑豊鉄道沿線の魅力をPRするため、レストラン列車「ことごと列車」を運行。

【2 誰もが移動しやすい交通環境の推進】

- 多言語表記、Wi-Fi環境等の整備について、県議会、県、市町村等、商工団体等で構成される福岡県地域交通体系促進協議会において、交通事業者、関係機関への要望活動を実施。
- 過去に制作したドライブマニュアルのデジタルブック化を実施（英語・韓国語、繁体字、タイ語）し、デジタルブックにアクセス可能なQRコードを記載したチラシを制作。
- 鉄道駅、バスターミナル等の主要な旅客施設と公共施設及び福祉施設等を結ぶ道路について、歩道の拡幅・段差解消、勾配改善、視覚障害者用誘導ブロックの設置等を実施。
- 鉄道駅やバスターミナル等の旅客施設におけるエレベーター設置、多機能トイレの設置、通路の幅員確保、点字ブロックの設置等、交通施設のバリアフリー化を推進。
- ユニバーサルデザインタクシー及び福祉タクシーの車両を導入するタクシー事業者に対し、導入費用の一部を助成。

【3 まちづくりと連携した交通環境の整備】

- 鉄道等との結節点機能向上のため、アクセス道路等の整備を実施。
- 駅前広場、待合環境等の整備を実施。
- 幅員狭小な箇所や歩道未整備箇所の改善を実施。
- 交通量が多く事故の危険性が高い通学路等において歩道の整備を推進。
- 交通事故の発生件数が多く、危険な箇所などについて交差点の改良や交通安全施設等の整備を推進。
- 生活道路における人優先の安全で安心な通行空間を確保するため、ゾーン30プラスの整備を推進。
- 貸出用自転車を購入する観光協会、事業者に対し補助を実施。

●施策目標

順調に進捗しているもの

施策目標	当初値 (令和2年度)	目標値 (令和8年度)	現状値 (令和4年度)
立地適正化計画を作成した市町村数	11市町村 (累計)	19市町村 (累計)	14市町村
新たな輸送サービスの導入件数(再掲)	8件 (累計)	30件 (累計)	17件 (累計)
鉄軌道駅の段差解消率	94% (令和元年度)	100% (令和7年度)	96.4%
駅前広場の整備率	81%	86%	83%
西鉄天神大牟田線(春日原～下大利)連続立体交差事業の整備(再掲)	—	完成 (令和6年度)	—

努力が必要なもの

施策目標	当初値 (令和2年度)	目標値 (令和8年度)	現状値 (令和4年度)
乗合バス利用者数(再掲)	269,132千人 (令和元年度)	維持	201,101千人 (令和3年度)
鉄道利用者数(再掲)	1,389千人/日 (令和元年度)	維持	1,064千人/日 (令和3年度)
地域鉄道利用者数(再掲)	7,540千人 (令和元年度)	維持	6,109千人 (令和3年度)
延べ宿泊者数(日本人)	1,616万人泊 (令和元年)	1,772万人泊 (令和8年)	1,339万人泊 (令和4年)
延べ宿泊者数(外国人)	426万人泊 (令和元年)	532万人泊 (令和8年)	61万人泊 (令和4年)
低床バスの導入率 〔ノンステップバスの導入率〕	77%〔35%〕 (令和元年度)	90%〔48%〕 (令和7年度)	78.2%〔37%〕 (令和3年度)
<p>【今後必要な取組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 延べ宿泊者数(日本人)、延べ宿泊者数(外国人) <ul style="list-style-type: none"> ・今後の観光需要回復期における需要を確実に取り込むため、旅行者の受入環境の充実に取り組むとともに、令和6年度春の福岡・大分デスティネーションキャンペーンに向けた観光資源の磨き上げや、国内誘客プロモーションの推進を実施し、宿泊者数の回復を図る。 ・また、インバウンドの需要開拓として、福岡ならではの競争優位性の高い高付加価値、高単価なモデル旅行商品を造成しPRすることで、宿泊者数の回復を図る。 ○ 低床バスの導入率〔ノンステップバスの導入率〕 <ul style="list-style-type: none"> ・誰もが円滑に移動できるよう低床バス等バリアフリー車両の導入を促進する必要があるため、引き続き、バスのバリアフリー化に向けて必要な支援を提供する。 			

4 強靱で安全安心な交通を確保する

大規模な自然災害の発生を踏まえ、災害復旧・復興に向けた取組を加速するとともに、災害に強い県土づくりに取り組んでいる。

大量の修繕・更新時期を迎える交通インフラの予防保全型の維持管理へ移行し、計画的な対策を実施することにより、施設の長寿命化を図るとともに、財政負担の軽減・平準化に取り組んでいる。

また、引き続き飲酒運転撲滅対策、交通安全対策の推進に取り組んでいる。

●主な取組内容

【1 災害からの早期復旧の実現】

- 九州観光機構が開催する旅行会社向けの観光素材説明会や、世界最大級の旅行博覧会（ツーリズム EXPO ジャパン）において、日田彦山線 BRT 沿線の観光素材を PR。
- 道路の災害について、道路利用者の安全・安心な交通の確保ができるように迅速に道路の復旧を実施。

【2 大規模災害に備えた交通基盤の構築】

- 高規格道路、物流拠点や IC へのアクセス道路、重量物流道道路、緊急輸送道路等の整備を実施。
- 点検等により道路斜面の崩壊や落石等の災害のおそれがある箇所について、道路利用者の安全・安心な交通を確保するため、道路防災対策を実施。
- 橋長 15m 未満の橋梁について、落橋・崩壊などの致命的な損傷を防止するための耐震対策工事を実施。
- 災害発生時に緊急物資や避難者等を輸送するための耐震強化岸壁を整備。

【3 交通施設の適切な維持管理の推進】

- 道路の交通量に応じて、通年、道路巡視を行い、必要に応じ、維持・補修を実施。
- PCB を含有する橋梁の塗装塗替え工事を実施。
- 測定器を用いた線路の歪みの計測、マクラギ等の部材の損傷やレールの摩耗の検査を実施。また、保守用車を使用して線路の歪みの矯正を実施。
- 博多駅、行橋駅の高架橋柱の耐震補強を実施。
- 「警察施設（交通安全施設）個別計画」に基づき、信号機や道路標識等の交通安全施設の計画的な更新、総数管理等の老朽化対策を実施。

【4 安全で安心して暮らすための交通安全対策、飲酒運転撲滅対策の推進】

- 県、県警、県議会を中心に、国、市町村の各機関や交通安全関連団体により構成される運動本部を組織し、四季の交通安全運動を始めとする各種啓発活動を実施。
- 高齢運転者に対する交通安全教育や広報啓発活動の推進と自主返納制度や支援制度の周知を実施。
- バス停留所の安全対策の検討状況や、実施状況についての情報共有、点検等を行う福岡県バス停留所安全性確保合同検討会の構成員として参加し、県内のバス停留所の現状を確認。
- 飲酒運転撲滅キャンペーンを通じて広報・啓発活動を実施。

●施策目標

順調に進捗しているもの

施策目標	当初値 (令和2年度)	目標値 (令和8年度)	現状値 (令和4年度)
15m未満の県管理道路橋の落橋・崩壊防止対策の実施橋梁数	34橋 (累計)	全て実施 (累計64橋)	36橋
主要ターミナル駅耐震化率	90%	100% (令和6年度)	92.9%
さわやか道路美化促進事業の認定団体数	747団体 (累計)	920団体 (累計)	805団体
停電による信号機の機能停止を防止する信号機電源付加装置の整備台数	43基 (累計)	67基 (累計)	62基 (累計)
交通事故死者数	101人 (令和3年)	80人以下 (令和7年)	75人 (令和4年)

努力が必要なもの

施策目標	当初値 (令和2年度)	目標値 (令和8年度)	現状値 (令和4年度)
飲酒運転による交通事故発生件数	94件 (令和3年)	60件以下 (令和8年)	91件 (令和4年)
<p>【今後必要な取組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 飲酒運転による交通事故発生件数 <ul style="list-style-type: none"> ・第4次福岡県飲酒運転撲滅推進総合計画（R4～8年度）に基づき、飲酒運転の取締りを強化するとともに、県民一人一人に「飲酒運転は絶対しない、させない、許さない、そして、見逃さない」という意識の定着を図るため、県、県警察、市町村、関係機関・団体等が連携した広報啓発活動や交通安全教育などの飲酒運転撲滅運動を推進する必要がある。 			